

発行日：2011年8月1日

発行人：パートナー情報誌「香澄」編集部

編集員：浅野明宏、有吉潔、稲葉寛、尾形孝彦、

栗原知彦、平江俊之、安川敏行、

深澤幸義、高橋慎、松本忠士、中根尚美、

### 「センター夏まつり2011」を開催します

センター夏まつりについては、8月20日(土)に例年どおり開催することとなりました。センターについては東日本大震災による影響もありましたが、施設の仮復旧も済み、ほぼ例年どおりの規模で開催できる見込みとなっております。

内容については各環境保全団体等による出展、クイズラリー、投網教室、研究室一般公開など体験型イベント、マジックショーなどの楽しいイベントのほか、環境保全に取り組む市民団体等による環境フォーラムを開催する予定です。また、昨年に引き続きパートナーブースが出展されることとなっております。

については、パートナーの皆様と共に盛大に開催できればと思いますので、当日の運営に際しては皆様のご協力をお願い申し上げます。詳細についてはセンターホームページをご覧ください。(センター：高橋)



### 「センター夏まつり 2011」 パートナーブース出展について

#### 出展のご案内

センター事業でもあります恒例の「夏まつり」イベントが開催されますが、今年も我々パートナーブースが、センターのご支援もあり承認されました。この出展はパートナーが主体で企画・運営するもので、今年で2回目となります。

出展(案)として、ブース内、ブース外に分け検討中ですが、ブース内(案)として、魔法の粘土細工や各グループの活動状況及びパートナー自主活動状況等の展示です。また、ブース外ではクイズラリー形式で各グループの活動内容紹介パネルの中から出題する等の企画を考えております。実施にあたり、企画部会として「夏まつり」パートナー実行委員会を立ち上げ、企画・運営して行きます。昨年同様、パートナーブースでの楽しいひと時をお過ごし頂ければと、皆様のお出でをお待ちしております。

#### 実行スケジュール

企画の概要決め→出展内容を検討→出展の準備、試行→ブース内レイアウト検討→ブースのセッティング→イベント対応の手順で進めていきます。(パートナー企画部会：尾形)

### イベント・記録グループ催しのお知らせ

イベント・記録グループ主催の7、8月の催しをお知らせいたします。パソコン教室は7月2日に開催された結果及び環境フォト撮影会が開催されますのでその案内を連絡します。

#### 1. パソコン教室が7月2日に開催されました。

皆様は各グループで日頃活動されていますが、その中でよくパソコンを利用されていると思います。活動の記録、写真の保存、データ集計、Eメール等といういろいろ使い方があるなかで、皆さんが日頃困っている事を皆で教え合うという形式のパソコン教室を開催致しました。12名が参加され、各質問事項を5台のパソコンに振り分けて説明をしました。

自分が出した質問に対しては全て理解され、納得されたようです。別途、何回か自分で実際にやると身につくと思います。

#### 2. 環境フォト撮影会

例年開催しております、環境フォトコンテストを今年度も開催いたします。但し今回は趣向を変えて、撮影会及びフォト展示形式で実施致しますので多数のご参加をお待ちしています。参加者一同は土浦市沖宿の蓮田へ行き、そこで蓮田に関連したもの(ハスの花、葉、蓮田の風景等)を撮影してもらいます。所定の場所で皆さんが蓮田を見てどう感じるか、感じるがままに撮影してもらいます。

1) 実施日：平成23年7月30日(土)及び8月6日(土)(2回実施しますので両日参加されても結構です。)

2) 集合場所：センター1F エントランスホール 集合時間：8時00分

申し込み等については別途、センターから連絡致します。

(記 栗原)



### 「第2回パートナー霞ヶ浦講座」開催のお知らせ

昨年パートナー霞ヶ浦講座を開催し、大変好評でしたので今年も引き続き開催する事に致しました。センターの各研究室で研究されている内容はなかなか聞く機会がありませんが、今回は日頃研究されている事を講義していただく事になりました。パートナーとしてよりスキルアップする上でも良い機会でもあり、ぜひ出席していただければと思います。出席申し込みについてはセンターから全パートナーに連絡されていますが、変更があった場合はセンターから連絡しますので留意下さい。

	講座名	日時	内容	場所
1回	霞ヶ浦等の水質、調査研究について。	7/2 (土) 10:00~11:30	県内の湖沼(霞ヶ浦、潤沼、牛久沼)の概要と、センターの研究の方向性。	センター 2F会議室
2回	霞ヶ浦の有機物(有機炭素)の挙動の解明に関する研究。	9/3 (土) 10:00~11:30	霞ヶ浦の藻類の生産、分解、沈降に伴う有機物の変化を把握する事により、有機物の起源を解明する。	同上
3回	流域からの流入負荷に関する調査研究。	11/26 (土) 9:00~12:00	流域からの負荷削減のための手法の検討。	戸崎、手賀、銚田川上流
4回	①脱窒現象の解明。	1/21 (土) 10:00~12:00	霞ヶ浦における脱窒現象を解明し、有効な窒素削減対策を探る。	センター 2F会議室
	②北浦におけるりんの低減化に関する研究。(北浦におけるりんの溶出特性)		北浦におけるりんの高濃度の発生時期、発生場所等を精度よく予測できるようにし、りんの削減につなげる。	
5回	植物プランクトンに影響を及ぼす環境因子に関する研究。	2/4 (土) 10:00~11:30	優占藻類と窒素・りんの濃度や光環境等様々な環境因子など発生、増殖に影響する要因を明らかにし、藻類の増殖抑制につなげる。	同上

## 第2、3回「パートナー霞ヶ浦クリーンUp活動」の報告

第2回の「霞ヶ浦ゴミ拾い活動」は、予定通り5月(奇数月)18日(第3水曜日)に実施した。平日のため集まりを心配したが、前回からの継続1名に加えて新たな参加者が3名あり何とか面目を保てた。

新しい参加者のため出発に先立ち「ゴミ拾いの場所」「ごみの種類と分別方法」などの打合せをして徒歩で湖岸に向け出発、前回同様沖宿第2機場で2人ずつ東西の2手に分かれて活動開始、前回に比べてゴミの量は少なくなった感じ。しかし堤防上には多くの「タバコの吸殻」が捨ててあった。初めて参加した1人が丹念に拾っていたがついには音を上げた。特に釣り場の付近には纏めて捨ててあり、これは車の吸い殻入れをあけたのだろう。ちなみに、昔利用した駅周辺の釣具屋さんの出入り口には「ゴミと残り餌は持ち帰ること」との張り紙があったが、今はどうだろ。猛省を促したい。拾い集めたゴミはセンターの松本主任が軽トラでセンターに運搬していただき再分別の上それぞれ袋に詰めて終了した。今回の量は前回の半分ぐらいだった。

第3回の活動は、6月18日(第3土曜日)。4、5月の参加者を中心に事前に10名の参加申し込みがありゴミ袋等準備したが4名が欠席、しかし飛び入りの方が1名あり(感激!!)7名で開始した。(途中まで参加してくれた1名は体調不良を訴え早退した。その後の健康回復を祈る。)今回は経験者が多く作業は順調に進み回収も前回よりは人数が多い分少し多かったかな。が、今回も壊れた車の部品の一部や半分枯れた鉢植えの屋内園芸樹が鉢ごと捨てられていた。一体霞ヶ浦を何と心得ているのだろう(何処かで聞いたようなセリフだが)。「霞ヶ浦問題」を原点に戻って考え直す時期に来ているような気がする。(記:有吉)



第2回活動の成果



第3回活動の出席者と成果

## 珍しい花の紹介

センターの庭にある珍しい花をご紹介します。

### 1 十六夜薔薇 (いざよいばら)

中国中南部原産の原種のバラで、古くから観賞用に栽培されていたようです。春には枝先に直径8センチほどのピンク色の花を咲かせます。名前は花の一部が欠け正円ではなく、十六夜の月に見えることに由来しているようです。



※下側が欠けている

### 2 丁字草 (ちょうじそう)

川岸などの湿った草地に生え、高さは60センチ位になります。5、6月ごろに茎の先の淡い青紫色の花を咲かせます。名前は花を横から見ると「丁」の字に似ていることに由来しているようです。古くは観賞用に栽培することもあったようですが、準絶滅危惧(環境省)、危急種(茨城県)とされ稀少となっております。(センター:高橋)



# 平成23年度春季 植物グループ「湖岸植物 定点観察」パートナー活動の抄録

(文責：植物Gリーダー 有吉)

## 《H23年3月 観察の概況》 観察日：観察中止

3月の観察は、11日に発生した東日本大震災によりセンターが休館となり、かつその後の連日の余震のため中止した。センターの前庭には、現在筑波山では見ることが極めて困難となっている“ツクバウグイスカグラ”や“ウグイスカグラ”など庭木としても貴重で、可憐な花が咲いていた。



**ウグイスカグラ** (鶯神楽)  
スイカズラ科 落葉低木。花はピンク。



**ツクバウグイスカグラ** (筑波鶯神楽)  
筑波山で発見され“ツクバ”の名を冠した植物の一つ。



**同左 花の拡大写真**  
(上記はセンター 軽部主査 提供)

## 《H23年4月 観察の概況》 観察日：2011-4-27(水)

この日は波風が強く観察には苦労したが、湖岸はヨシ、マコモ、ウキカグラなどの水生植物が一斉に伸び始め、低地ではアカメヤギやワルの葉・花が黄色に輝いていた。また、シヤコメツツメの小さな花も法面を賑わしていた。



[A, B 区] **シロネ** シソ科 多年草  
昨年の枯れた茎の脇から新芽が。



[E, F 区] **アカメヤナギ** 落葉木本  
ヤナギ類の花期の最終ランナー。



[G, H 区] **ノウルシ** トウダイグサ科  
多年草。群生し黄色の花序を広げる。

## 《H23年5月 観察の概況》 観察日：2011-5-25(水)

初夏の雨あがり、湖岸の植生は“みどり”が眩しく感じられるなか、スイカズラやノイバラの白い花、キショウブの黄色い花などが満開となり、アカメヤナギやタチヤナギの種が綿毛に包まれて雪のように舞っていた。



[A, B 区] **ドクゼリ** セリ科 多年草  
日本3大毒草の一つ。全草猛毒。



[E, F 区] **キショウブ** アヤメ科  
水辺で野生化した欧州原産多年草。



[G, H 区] **スイカズラ** スイカズラ科  
半落葉つるの性木本。甘い香りの両性花。

## デジタルカメラ 選び (その1)

初心者カメラマンにとっては、一般のコンパクトデジカメにするか、デジタル一眼レフにするかは財布の中身と相談するのが現実的だと思いますがスナップ写真や記念撮影ぐらいにしかカメラを使わないとか、年に1～2回しか、使わないのであればコンパクトデジカメで充分だと思います。

花をマクロレンズで撮り大きく伸ばしたり、風景を美しく表現したり、また写真をパネル貼りにして展示したいのであれば迷わずデジタル一眼レフをお勧めします。

一般的にデジタルカメラと呼ばれるものは、大きく3種類に分かれます。

小さくレンズ一体型の「コンパクトデジカメ」、ファインダーに写る画像を見ながら撮影できる「デジタル一眼レフカメラ」、一眼レフとコンパクトデジカメのハイブリッドのような「マイクロ一眼カメラ」と呼ばれるカメラです。

ここでは価格も安く、高画素数の「コンパクトデジカメ」と単に価格が高いだけと思える「デジタル一眼レフカメラ」について比較して見ました。

### ・コンパクトデジカメ

長所： ・とにかくコンパクト (大きさ、重量)

- ・価格が安い
- ・取り扱いが容易で使いやすい

短所： ・撮像素子が小さいので画質がやや劣る (画素数は一眼レフと同じくらい)

- ・構造上広角撮影が苦手
- ・ボケを生かした撮影が難しい
- ・一眼レフに比べISO感度が低い

### ・デジタル一眼レフカメラ

長所： ・多彩なレンズと交換できる

- ・撮像素子が大きいので画質が良い
- ・ISO感度が高い (高速シャッターが使える)

短所： ・大きく重いので持ち運びが不便

- ・価格が高い
- ・取り扱いに少し注意が必要

以上の比較の中で「撮像素子」が大きい、小さい。また、「画素数」は同じくらいとありますがどんなことか見てみます。撮像素子というのはイメージセンサー (CCD、COMS) と呼ばれておりレンズに写った画像 (つまり光) をデジタル信号に変換する部分のことで、これが高性能かどうかで画質がきまってしまう。いわばデジカメで一番大事な部分でもあります。これが大きく高性能なほど価格も高くなります。

撮像素子の大きさを比較すると次のようになります。

	撮像素子のサイズ	面積比
・コンパクトデジカメ	: 1/2.33型 (6.2×4.6mm)	: 7.5
・デジタル一眼レフ	: APS-Cタイプ (23.4×16.7mm)	: 100
	: フルサイズ (36×24mm)	: 225

画素数とは画素を「ピクセル」といい、画素数は画素の数のことをいいます。デジカメでは1000万画素、10メガピクセルといった単位で使われます。画素数が多いほど高画質と勘違いしている方も多くはおもいますが、実は同じ画素数なら撮像素子が大きいほど高画質になります。画素数が同じのとき撮像素子の面積によって一画素当たりの面積が変わります。撮像素子の面積が多い時、当然一画素の面積も多くなりその分多く光を取り込めることより画質も良くなります。画質は、撮像素子の大きさの他にレンズや、画像処理技術の良し悪しが大きく関係していますので一概にコンパクトデジカメがデジタル一眼レフに比べ劣るとは思いませんが撮像素子が小さい分だけ不利になると思います。

デジタルカメラを選ぶときはどのような目的で使うかが一番大切な選び方だと思います。

## (その2) 画角と焦点距離

(撮像素子サイズでレンズの焦点距離が変わる)

画角と焦点距離はレンズについて言う場合がほとんどですが、画角とは写真にうつる範囲のことをいいます。別名視野角ともいい、レンズの種類によって写る範囲がいろいろ違います。

画角が広いほど焦点距離が短くなり、画角が狭いほど焦点距離は長くなります。

焦点距離が短く、画角が広い(広範囲を写すことが出来る)レンズを广角レンズといい焦点距離が長く、画角が狭いレンズを望遠レンズといいます。

どんなレンズにでも焦点距離が表記してあります。焦点距離28mm(35mm換算)以下のものを「广角レンズ」、100mm(35mm換算)を超えるものを「望遠レンズ」、50mm(35mm換算)位のものを標準レンズといいます。

・撮像素子サイズでレンズの焦点距離が変わる

デジタル一眼レフカメラの撮像素子(フィルムの役割をする部分)のサイズは大きく2種類に分けられます。一部のプロフェッショナルモデルに採用されている35mm版サイズと、廉価版モデルに採用されているAPS-Cサイズです。

ここで問題になってくるのが、カタログやレンズに表記されている焦点距離は、35mm版の撮像素子に映る焦点距離が示されています。

APS-Cサイズの撮像素子は35mm版の撮像素子に対して小さいので、3分の2程度しか写りません。

何が言いたいかと言うと、焦点距離50mmのレンズを買っても、APS-Cサイズのカメラで写すと75mmくらいの焦点距離になってしまうということです。

ちょっと望遠気味になってしまうということですね。

APS-Cサイズのカメラを使うときは、通常表記されている焦点距離から1.5倍した焦点距離に計算しないといけません。ですので、例えば50mm程度の画角の標準レンズが欲しい時は、焦点距離が35mm程度の画角のレンズを選ぶようにしなければいけません。(以下次号)

(目次 隆)

---

## 中欧(ブダペスト・プラハ・ウィーン)への旅

6月12日から18日まで中欧のツアーに参加した。37人の大所帯で他にいくつかの団体のツアー客もあり、飛行機は満席でぎゅうぎゅう詰め状態だった。2ヶ月前は東日本震災の影響で空席ばかりが目立ったようで、私も4月の出発をキャンセルしていた。

—ブダペスト(ハンガリーの首都)—

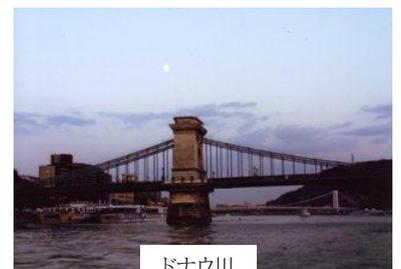
成田から11時間半でウィーン国際空港に到着し、すぐにバスでブダペストまで3時間かけて移動した。車窓から眺める風景は行けども行けどもとうもろこしや麦畑が延々と続き、その畑の中に沢山の風力発電用風車が立っていた。ハンガリーとの国境は昔の検問所の建物が残っていて、人影は見えずそのまま通過した。単調な景色に睡魔が襲い、睡魔との闘いが始まる。時差ボケをできるだけ少なくするために飛行機で眠いのを我慢してきたのだからここで負けじと頑張った。

ドナウ河中洲のマルギット島にホテルがあり、到着したのは20時頃で、まだ周りは明るかった。ホテルには温泉浴場もついていた。ハンガリーは日本と同じように温泉天国だそう。それは、火山はないが地殻が薄くてマントルに近いからだ。

カエルの鳴き声で目が覚めて、朝早くこの島をワクワクしながら散策した。ヨハン・シュトラウスの「美しき青きドナウ」の曲名のような青く澄んだきれいな河ではなかったが、島全体がうっそうとした森林で囲まれ、動植物の自然の宝庫である。ジョギングする人達と挨拶を交わしながら朝の1時間半の散歩は大変楽しかった。

ハンガリーはアジア系の民族(マジャール人)で、我々と同じモンゴロイドで、昔は子供にも蒙古斑があり、言語も日本語に近いそう。しかし、現在の街の人達の顔はアジアより欧州人の顔をしている。1000年前のハンガリー初代国王イシュトバーンが民族存続のためにキリスト教に改宗する道を選び、長年にわたり欧州の白人と同化していったためだ。

ドナウ河のこの一帯は浅瀬になっていて、この河を挟んで西岸はブダ地区で丘陵地帯の岩山に王宮が建ち、昔の政治拠点であった。東岸はペスト地区で平野部になって商業の拠点であった。この2つの地区を鎖橋でつなぎ、1873年にブダペストとして統合され、それ以来ハンガリーの首都として発展してきた。1896年の建国1000年に向けられて町の整備が行われ、主要な建物はこの頃建設されたもので、建築物はヨーロッパの各都市の建物を模倣した寄せ集めといわれている。しかし、大変美しい町並みで“ドナウの真珠”と呼ばれている。



ドナウ川



マーチャーシュ教会

ブダ地区にあるマーチャーシュ教会（ハンガリー王国の全盛時代の王様の名）は、歴代の王の戴冠式が行われた格式のある教会で 16 世紀、オスマントルコの支配下で 150 年間モスクにされ、その後、ハプスブルクの支配で元のキリスト教会に戻された。教会の中の雰囲気は、派手さが無く、暗い内部にオリエント式の壁画などがあり、何か東洋的な神秘的な雰囲気を漂わせている。

ペスト地区はハンガリー初代国王イシュトヴァンの名前のついた大聖堂があり、荘厳な雰囲気の中でミサが行われていた。この国王の生誕地（ドナウベント地方）には、立派な大聖堂が建っていて、ハンガリーのカトリック総本山になっている



ブタペスト 王宮

ドナウ河畔に立つ宮殿のような華麗な建物は 19 世紀初めに建てられた国会議事堂で現在も使用されている。

ドナウ河ナイトクルーズで、ライトアップされたブダペストの夜景が見られるとあって大いに心躍らせていたが、残念ながらこの時間帯（20—21 時）はまだ明るくてライトアップがなされなかった。エリーザ・ベトがこよなく愛したブダペストの町に後ろ髪を惹かれる思いで、次のチェコへ向かった。（平江）

## 星になったチロ



こんにちは。文献資料室の土肥です。わたしが長年続けることになった趣味の一つ『天文』。そのきっかけと、星の魅力を教えてくれた本をご紹介します。小学 4 年生のころ。ピアノの待ち時間にたまたま見かけた天体写真家藤井旭先生の『星になったチロ』（ポプラ社）という一冊の本が、星の世界に導いてくれました。

そのころ星に興味があったわけではありませんでした。表紙の北海道犬チロが愛犬（雑種ですが）そっくりだったのです。藤井先生がチロと出会い、星仲間と天文台を建設し、チロが天文台長になる……。読んでいくうちに自分もどんどん星の魅力にはまっていきました。それからは、藤井先生の星の解説本を片手に、星座をひとつひとつ覚えていきました。最初に覚えたのは、夏の星座のさそり座だったと記憶しています。南の空にうかぶ、大きな S 字カーブに感動したことを今でも覚えています。都会では、数えるほどの星しか見えないという時代でも、うっすらと天の川が見える自然に恵まれた町に住んでいるのも、星好きになるきっかけになったのかもしれない。これまで宇宙がたくさんの驚きと感動を与えてくれました。これからもどんな現象が起こるのか、わくわくしています。まずは、来年 5 月 21 日の金環日食！ 観測用フィルターを用意して、準備万端！ あとは晴れるのを祈るだけ。愛犬が導いてくれたこの趣味をこれからも続けていきたいと思っています。こんな世の中だからこそ、空を見上げて、ほっと一息つくもの、よいのではないのでしょうか。多くの方に、何かのきっかけとなる本に出会えるお手伝いができればと思っています。



（文献資料室 土肥）

## 刻字(第2回)

### 1. あきらめない (16cm\*62cm)



「あきらめる」とは、辞書的には仕方がないと断念したり、悪い状態を受け入れたりする意味です。人生には逆に「あきらめない」精神が大きな成果を生むこともあります。

トロイア遺跡の発掘で有名なドイツ人、ハインリッヒ・シュリーマンはホメロスの「イリアス」を読んで感動した子供のころの気持ちを一生もち続けました。そして後年、見事にトロイアの遺跡を発見したのです。その偉業は世紀の発見として賞賛されました。あきらめるのは簡単ですが、あきらめない精神は容易には身につけません。シュリーマンは、周囲の人たちが絵空事だからと笑っていても、トロイアの存在を信じ、自分の夢を追い求め、あきらめなかったのです。私たちも、彼の精神力を見習って、容易には、「あきらめない」ようにしたいものです。

### 2. 井伊直弼の歌 (37cm\*90cm)



幕末の動乱期に老中として威勢を奮った井伊直弼の作です。

茶の心得があった御仁らしく、「和敬清寂を詠み手」という前書きがあります。千利休によれば、和敬とは「和して敬う」という茶道における主人と客の互いの心掛けをあらわし「清寂」には庭のただ住まいや茶器などが華美になりすぎないようにという意味がこめられています。

「和」という語には平和とか、和合するといった意味合いのほかにも、いくつかの異質なものを掛け合わせ、新しい価値を生み出すという考え方もあります。

この歌は、無風のときは枝垂れて、風が吹くとそれに逆らうことなくしなやかになびく柳に人生を重ね合わせ、どんな事態にもあわてず、奢らず、ごく素直に、そして自然体に構えていれば、やがて真理は見えてくるものだという心境を表しています。  
(和知裕善)

### 我が家のヤマモモ

それは、私が禁断の木の実を食べたことから始まりました。今から7年前の夏、某花木センターで試食した直径2.5cmぐらいの真赤な実、甘酸っぱさが口の中で広がり、とても美味しかったのです。この実こそがヤマモモ(山桃)なのです。植付け時期を確認し、早速翌年1月中旬に1本(直径2cm程)の苗木を購入し、庭の隅に植付けました。

植付け後の話は後ほどにし、少しヤマモモの植生についてお話ししましょう。ヤマモモはヤマモモ科の常緑高木(2.5mほどの大木になる)で暖かい地方の海岸に近い所に自生が見られ、関東以南で植栽される雌雄異株で雌木は開花後6~7月頃に結実し、果実は塩水で洗い生食やジャム、果実酒に利用します。果実酒はグラニュー糖と白ワインに漬けて造り、1~2ヶ月で飲めます。ワインゼリーは、ワイン漬けの実と砂糖を寒天液に加え煮たせてから固めるようですが、私は果実酒のみです。

さて我が家のヤマモモですが、2005年に植え付けてから、特に肥料も施さず成長をじっと見守ること5年、やっと昨年7個の大きな(普通の実の1.5倍)真っ赤な実を付けました。ヤマモモの品種は何種類かあるのですが、一般的なのは端光と呼ばれる品種で直径1.8cmぐらいの実成りの多い品種で完熟の赤が壮観です。



私は秀峰という大きな実の品種を選びました。選ぶにあたり、雌雄異株なので実が付いていないと雌木か雄木か判別がつかみませんので困りました。幸い、顔見知りになった売り場のおばちゃんが育てた苗木とのことで購入し、見事5年目に結実しました。雄花の花粉が雌花に付着し、結実します。近くに10本ぐらいの雄木の街路樹があり、多分そこから花粉が飛んできているのだと思います。今年は沢山実がなり、また果実酒を造りたいと思っています。しかし、まだ青い実の状態です。完熟までにはもう少し時間がかかりそうです。

皆さんも是非1本植えてみては如何でしょうか。その際、くれぐれも信頼できるお店でお買い求めください。3~4年辛抱すると真っ赤に熟した甘酸っぱい美味しい実が食べられますよ。  
(記:尾形)

## 日本最高所の野天風呂

日本最高所の野天風呂といわれる本沢温泉に行ってきた。八ヶ岳のひとつ硫黄岳の東斜面の湯川に湧く温泉で標高は 2,150m、雲上の湯と称する秘湯である。温泉の発見は江戸時代末期、湯小屋が始まったのが1874年だという。山小屋にある温泉なので、車では行けない。夏でもゲートから2時間前後、冬は麓から4時間以上の徒歩になる。本沢温泉へのルートは八ヶ岳の主要な登山道のひとつになっているから登山客が多いが、温泉ファンも結構訪れているそうだ。

今回は硫黄岳に登り、本沢温泉に下りて宿泊する、山と温泉を楽しむコースを満喫できた。

野天風呂は小屋から5分ほど登り、火山灰の崩れやすい崖を下った急な溪流のそばにある。5~6人がはいれる浴槽と1畳ほどの板敷の脱衣所があるだけで、浴槽・脱衣所とも何の囲いもなく、もちろん混浴だ。泉質はpH3.0の酸性—含硫黄—カルシウム・マグネシウム—硫酸塩泉、源泉の温度は43℃、硫黄臭があり、濃い白濁で味はあまりない。

深めの浴槽のなかに腰掛があり、見上げると硫黄岳の爆裂火口壁が望める。雄大な景色だ。

湯の中で、日の出を迎えたく、午前4時半ころから入る。ただ、この時の外気温が6℃（6月9日）と低く、あとで小屋の内風呂（別の源泉で高温）に入り、温まりなおす。

温泉には様々な効能がありますが、次第に明るくなって行く大自然に囲まれ自然とのふれあいを実感でき、至福のひとときを過ごすことができた。

（安川）



## ★交流会のお知らせ★

企画部会では、センターパートナーと県立自然博物館のボランティアの方々との交流会を企画しております。内容は自然博物館を見学し、ボランティアの方々との意見交換会を行う予定です。開催は平成23年9月17日（土）です。詳細は決まり次第皆様にお知らせいたしますので、奮ってご参加ください。

### 「パートナー情報誌 香澄」原稿募集

香澄編集部会では「香澄」に掲載する原稿を募集しています。内容は問いません。センターでの活動内容や、趣味などなんでも結構です。写真も大歓迎です。原稿はパートナー室のメールボックスに入れておいてください。多数の皆さんのご投稿をお待ちしております。

（パートナー情報誌「香澄」編集部会）

【編集後記】六畳一間の私の“仕事場（ログハウス）”。午後2時現在の室温は36度。今日は38度までは楽いきそう。昨年の最盛期には40度を越えたから、まだまだ平気。ドアと窓を開けっ放しでこの状態。窓を閉めたまま外出したりすると、それこそ大変。何年前前にはパソコンが壊れ、電源ケーブルのモールが湾曲する被害を受けた。それでも、今年はエアコンは封印と決めている。東電に協力？。いや男の意地！。